

授業科目名	予防と治療の遺伝学		担当教員	◎松浦 拓人、大山 優 小堀 華菜、御手洗 幸子	科目ナンバリング
選択	開講年次：4年前期	単位：1単位	授業形態：講義15時間		LE436

【授業概要】

近年遺伝学やゲノム研究が進み、疾病の予防や治療が急速に発達してきている。基礎的な遺伝学や核遺伝学の基礎的知識を持つことによって、看護師としてより効果的な疾病予防活動や、患者教育を可能とする。

【授業目的・目標】

1. 遺伝学と核遺伝学の基礎を理解することによって遺伝学や核遺伝学を応用した疾病の予防や治療方法の理解に役立つ。
2. 遺伝学の知識を持ってファミリーヘルスアセスメントを行うことによって疾病の早期発見や家族教育に寄与する。
3. 薬理遺伝学の知識を薬物治療に対する患者の反応の観察と理解に応用する。

【履修条件】

「生物学」、「人間機能学(形態と機能)」、「人間病態学Ⅰ」を修得していること。

【授業計画】

[01] 遺伝学とは	(松浦)
[02] がんとゲノム医療 1	(大山)
[03] がんとゲノム医療 2	(大山)
[04] 遺伝性疾患と治療	(松浦)
[05] 出生前診断とスクリーニング	(松浦)
[06] 遺伝カウンセリング	(小堀)
[07] 遺伝看護とは	(御手洗)
[08] 遺伝看護の役割と活動の実際	(御手洗)

【教科書】

特に指定なし。

【参考書】

- 1) 新川詔夫、阿部京子(2015)：遺伝医学への招待(改訂第5版)、南江堂
- 2) フランシス・S・コリンズ(2011)：遺伝子医療革命ーゲノム科学がわたしたちを変えるー、NHK 出版
- 3) 千代豪昭(2010)：遺伝カウンセラーの臨床遺伝学講義ノート、オーム社

【評価方法・評価基準】

- 1) 授業の参加態度 20%
- 2) 課題レポート 80%

【講義のために必要な事前・事後学習】

事前学習：予習用パワーポイント資料を確認しておくこと。

事後学習：学生公開用パワーポイント資料を復習しておくこと。また関連書籍を検索し、課題レポート作成の準備をしておくこと。

【教育目標(必須要素)との関連】

この科目は、教育目標の必須要素Ⅲ. 根拠に基づいた看護実践能力、Ⅳ. テクノロジーを効果的に活用する能力、Ⅵ. ヘルスプロモーションと予防に関する知識と実践能力と関連する。

【試験や課題レポート等に関するフィードバック】

課題レポート等は、返却しない予定である。

【備考】

近年、ゲノム医療の進歩は目覚ましい。卒前に基本的な遺伝子学を習得して欲しい。